

「主と共に」

～あなたは誰と生きるのか？ 実を結ぶ人生、からし種、パン種～ 使徒2:22-47

■ 動かされない

「ダビデはこの方について、こう言っています。『私はいつも、自分の目の前に主を見ていた。主は、私が動かされないように、私の右におられるからである。』（使徒2:25）

私たちの心は小さなことで右往左往してしまいます。そして、そのように心が動く原因は人によって違います。ある人はこの部分で腹が立ち、ある人は別の部分でイライラします。しかし、その心が騒ぐときに大事なことが、この御言葉にあるように「動かされないように」、これが大事です。あなたの心は誰に騒いでいますか？ あなたに、誰が、何を言ってくると、あなたの心は動きますか。大概、あなたに近い人があなたの心を騒がせます。本当はこんなはずじゃない！こんな予定じゃない！と、心が騒ぐとき、私たちにあって害と思えるものを通して、神様は私たちの心が「動かされないように」、私たちと共にいて、テストしてくれています。どうしてイエス様が十字架にかかり、その道を忍ばれたのでしょうか。そして、あれほどしてもらった弟子たちが次々と裏切り、去って行ったのに、そんな彼らのもとにイエス様の方から出て行き、愛を示された姿を見ると、私たちはそうではなければいけないと思わされます。大事なことは、感情的になりそうとき、いかに自分の心を動かさないようにするかです。それは、自分の心をどれだけコントロールできるかということです。

聖書には努力について「努力して狭い門からはいらなさい。」（ルカ13:24）と書いています。たくさんの方が選ぶ道は「主流」であり「普通」とも言えます。この道は良いように見えて、実はすごく遠回りです。しかし、そんな中で絶えず狭い門があります。私たちが真ん中の道を選ぶ解決は早いのですが、私たちは普通を選んでしまいます。私たちは自分の意見を普通だと信じて、普通の人生を生きます。狭い門は選ばないと選べません。努力しないと選べません。その狭い門は何かということ、神様と共に生きようとする生き方です。人は一人で生きようとするとき動かされてしまいます。ダビデはそういう人生を歩んでいましたが、その中でいつも狭い門を選んでいました。また、失敗した後狭い門を選び「ごめんなさい」と謝っていました。ダビデはいつも神様を目の前に置き、神様を感じていたのです。あなたは神様を感じていますか。あなたの行く道、どんな時にも主を認めているでしょうか。

■ ① 天の御国 — あなたのの中に 天の御国を来させる —

「イエスは、また別のたとえを彼らに示して言われた。「天の御国は、からし種のようなものです。それを取って、畑に蒔くと、どんな種よりも小さいのですが、生長すると、どの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て、その枝に巣を作るほどの木になります。」（マタイ13:31）

天の御国とは、風が吹き、地震が起こるような神秘的かつ宗教的なものではありません。イエス様は天の御国とはパン種とからし種のようなものと言っています。からし種はゴマよりも小さな粒ですが、それを蒔くと砂漠のなかでも茂みができ、生き物が生きる場所となります。パン種はイースト菌のことで、一滴たらずだけでパン全体が膨らみます。このたとえ話の一つは内面のことを言っています。菌が入ると内側が膨らみます。もう一つは種で、相手に与える影響すなわち外側のことです。このようにイエス様はいつもたとえ話を使ってお話しになりました。このたとえ話は誰のことなのか。このたとえ話はあなたのことです。天の御国はあなたの内側と外側だと言っています。そして、それは人々に影響を与える内側と外側だと言っているのです。

エリザベットという女性は、ある日不慮の事故で頸椎を損傷し、「なんで私が…私は生きている価値がない」と言っていました。信仰の強い女性でしたが日に日に愚痴ばかりになっていました。そんな時、一人の掃除婦に出会いました。この時代、掃除婦は奴隷の仕事です。毎日毎日、笑顔で挨拶し、歌いながら掃除をしている掃除婦の姿を見て、「彼女とわたしの違いは何なんだろうか」とエリザベットは感じました。そこで彼女は今日から私は否定的なことばかり言うのをやめようと思いましたが、奴隷に生まれ、奴隷として生きるしかない掃除婦が喜んで掃除をしている姿で、一人の人に種が蒔かれました。その人は『歌いつつ歩まん』という賛美歌をつくり、その歌は私たちの人生に決断をさせてくれています。天の御国はあなたです。そして、その御国は人に蒔かれるときに実を結びます。

■ ② 悪い種に注意

気をつけなければいけないのが悪いパン種です。悪いパン種は私たちの心にやってきます。これは人を嫌いにする種です。本当に愛し合う関係のなかに嫌いな気持ちを与えます。悪いパン種はあなたの弱点を知っているから、あなたの心に一滴だけ菌を落とします。すると、わかっただけで、聞いてくれない、裏切られた、そういう言葉が湧いてきます。時間が経つと、いつの間にかそれは膨れ上がっているのです。そして、私たちは悪い種を蒔かないように気をつけなければいけません。

ん。私たちは行く先々で取る行動によって、良い菌か悪い菌かを蒔いています。一滴のあなたの間違った言葉が人々に感染し、人々の心を打ち枯らしてしまいます。良いパン種であれば、人々の心に入りその人を変えます。良い種であれば、憂鬱で死のうと考えていた人を元気づけ、歌をつくらせます。パリサイ人のパン種は人々を高ぶらせ、内と心の違う間違った人をつくります。聖書は同じパン種とからし種のたとえを通して、また毒麦のたとえを通して、全く相対的な結果をもたらすことを伝えています。

■ ③ いのちの道に生きる

「あなたは私のたましいをハデスに捨てて置かず、あなたの聖者が朽ち果てるのをお許しにならないからである。あなたは、私にいのちの道を知らせ、御顔を示して、私を喜びで満たしてください。」（使徒2:27-28）

カスビ海に面する国、アゼルバイジャンに一人の牧師が浮かけて行きました。帰り道、ナッツ売りの男の子エルシンに出会いました。神様が「彼と話せ」と言われるので、車から降り、話しをしました。エルシンは興味深くその牧師の話の聞き、「僕のために死んでくれた人がいるの？なぜ、僕のためにその人は死んでくれたの？」とたずねました。牧師は「今、君がこんな状況にあって辛いだろう。戦争があって、地域も家族もぐちゃぐちゃになってしまった。そんな君の痛みをとるために、救せない人を救すことができるように、イエス様は十字架にかかって死んでくださったんだよ」と伝えました。エルシンは「先生、次はアゼルバイジャンに来ることがあったら電話して！」と言って、電話番号を書いた紙を渡してくれました。それから2か月後、牧師は再度アゼルバイジャンを訪れました。同じ道を行きましたが、そこにエルシンはいませんでした。集会所がなくなり、彼がエルシンに電話をかけると、お父さんが出ました。牧師は2か月前にエルシンと出会ったことを話し、電話をしてくれと言われたことを伝えると、お父さんは泣き始めました。そして「もうエルシンはいないんです」と言いました。「1か月前、エルシンが道でナッツを売っているときに、居眠り運転の車が彼に突っ込み、彼は命を落としました。エルシンはもういないんです。」と教えてくれました。それを聞いた牧師は「そうですか…お気の毒に」と言うのが精一杯でした。電話を切ろうとしたとき、お父さんが「あの！あなたが“あの時”のあなたなんですか？エルシンは“あの時”から別人みたいでした。家に帰ってきて、いつも笑顔で優しくて、今まで嫌々していた仕事も本気になってやり、家族を支えてくれていました。ぜひ、あなたの話を聞きたいのです。私の家に来てくれませんか。」と言うのです。牧師はエルシンの家に行き、そこで話をしました。話を聞いたお父さんたちは、エルシンが変わった理由がわかりました。家族みんながイエス様を信じました。そして、その村が変わり、村には教会が建ちました。神様が滅ぶことはこういうことです。いのちの道とは、私たちにあって大したことはない、するべきかどうか、これをするかどうか何かプラスがあるのか、無駄ではないか、と思うようなことです。イエス・キリストがそうだったように、人々が捨てた石、それが私たちの礎になったのです。私たちの人生はそんなものなんです。一人の人が良い種を蒔けば変わります。でも「普通」として同じ種を蒔けば、人を傷つけ、破壊します。「普通」の道ではなく、種を蒔く道を選ばなければなりません。いのちの道とは「努力して神様と共に生きる道を選ぶ」ということです。

■ 神様と教会と共に

私たちに努力しなければならないことが一つだけあります。これは大変なものです。それは普通の人とは違う決断だからです。主と共にいる人は人生が変わります。一人の牧師が誰の目にも触れない男の子に伝えた一つの愛の言葉によって、家族が変わり、村が変わり、価値観までも変えました。一粒のパン種がパン全体を変えます。あなたがパン種となっていけば、あなたの家庭は変わります。主と共に生きるいのちの道に変わります。主と共にいることを教会で学びます。全く違う価値観の人たちのなかで、互いに研ぎあい、ものと姿になっていきます。夫婦がその原点であり、家族がその中心です。そしてそれが家族であり、教会です。あなたが置かれた場所で向き合っている人がいます。戦っているからこそ意味があります。私たちの家庭もこんな家にしていきましょう。「そして、一同の心に恐れが生じ、使徒たちによって、多くの不思議なわざとあかしの奇蹟が行なわれた。信者となった者たちはみないっしょにいて、いっさいの物を共有にしていた。そして、資産や持ち物を売っては、それぞれの必要に応じて、みなに分配していた。そして毎日、心一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をもとにし、神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。」（使徒2:43-47）

（要約者：岡本 享子）

（2018年5月27日）